

イベント等におけるリユース食器の普及促進に係る調査報告書

2008年10月 日



川崎市議会議員 吉沢 章子

はじめに

地球温暖化や資源の枯渇など地球環境を取り巻く情勢は、他人ごとでは済まされない時期に来ている。

行政や企業がこの問題に真剣に取り組むことは、社会のルールとして当然のことであるが、私たち市民一人ひとりも小さな省エネ、少ない節約であっても、限りある地球の資源を大切に使い守って行かなければならない。

市民の意識は、他人事から自分自身の問題として、しっかりと心の中でこの問題を全市民が理解し、正しく行動するときが来ているわけである。

その様なときにあって、私たち「エコウェーブかわさき推進委員会」では、環境問題を理解し、保全意識を持った市民の住む地域社会を形成するための一環として、多くの市民が集まるイベント等にリユース食器を活用し、この問題の啓発を全市的に広げるための方策の調査研究を行った。

その結果について、本報告書にまとめたものである。

また、この中で実証実験を行った際に、協力していただいた地域の方々、川崎市多摩区日本民家園通り商店街の皆様、「NPO法人Wave よこはま」の金子さんほかスタッフの皆様本当にありがとうございました。この紙面をお借りし、御礼申し上げます。

自由民主党 川崎市議会議員 吉沢 章子

1. 調査の目的

イベント等に安易に使い捨て容器を利用してしまっている現状は、昨今の環境意識の高まりと比べ、最も遅れている分野ではないか。

ゴミ削減と環境負荷の低減になることが地域や家庭に普及しないのは、何に起因しているのか。どこに問題があるのか。といったことを解明することで、多くの市民に環境保全への意識の高まりの出ている今、イベント等におけるリユース食器が普及しない現状をきちんと把握し、課題を整理する必要がある。そして、そこでの解決策がよりコスト面や効率面で活用されやすくなるために実証実験などを通じて、問題解決の糸口とすることを、本調査では、目指すものである。

2. 使い捨て食器とリユース食器の現状と普及が進まない理由

使い捨て食器は、軽い、安い価格、かさばらないという特性から、利用者、特にイベント等を準備する者の負担が少ないことから利用の占める割合が一向に下がらない。

家庭内においても多人数のパーティや宴会だと、後片付けなどの手間を考えると、身近に食器類がたくさんあるにもかかわらず、紙皿、紙コップを買い求めてしまっているのが実情である。

また、使い捨て商品の種類も、形、大きさ、デザイン等、バラエティに富んでいることも、子供会のパーティなどでは、こういったかわいらしい商品をあえて購入し、場の雰囲気づくりにも活用されている。

一方、リユース食器は、再利用を目的としているため、丈夫にできていることから、重い、かさばる、価格が高いといった使い捨て機器とは、相反する特性を持っている。

そして、回収と洗浄更に保管というイベント主催者にとって、相当わずらわしい側面を持っている。また、他人が使用した食器というイメージもあり、利用者が古くなった食器を避ける心理的な要因や返却しないで持ち帰ってしまったら、ゴミ箱に捨ててしまったりと、紛失食器が多く、この費用負担が、たびたびトラブルの元となることも。

3. リユース食器による新たな取組

(1) 移動食器洗浄車の開発と運営方法

地域のお祭り、コンサートなどの大勢の人々が集まるイベントでは、出店が出るのが魅力のひとつであり、飲食をすることで集客力を高め、その結果、必ずと言っていいほど大量のゴミが出る。焼きそばや、たこ焼きが入っていた発泡スチロールの容器、輪ゴムや割り箸、紙コップ、それに空き缶やペットボ

トルなど。

使い捨ての容器をやめて、繰り返し洗って使える食器を利用すれば、ゴミを減らせるのではないか。

この発想から、何回でも使えるイベント向けの食器を「リユース食器」として、食器洗浄機とセットで車に積んで、横浜のNPO法人「Wave よこはま」が、横浜からリユースの波を全国に広げていこうとしています。

「Wave よこはま」は、横浜市内・神奈川県内で初となるリユース食器洗浄車を開発、リユース食器の貸し出し事業を始めています。イベントの環境改善から始める小さなエコの輪を広め、使い捨て食器をやめることで、ゴミが減るばかりでなく、地球温暖化の原因となるCO₂の排出削減にも貢献することができます。

使えば使うほど環境にやさしい「リユース食器」は、身近で優れた発想だと思います。私たち「エコウェーブかわさき推進委員会」として、川崎市において初めて、イベントにおける「リユース食器」の実証実験に取り組みました。



4. 実証実験レポート

(1) 日時

平成20年7月19日(土) 午後4時30分～午後9時

(2) 場所

川崎市多摩区 日本民家園商店会 第10回夏祭り

(3) 内容

①イベント名とリサイクル啓発のためのオリジナルプリントのカップを使用する。

②ビール等の販売に当たり、出店者の協力を得て、紙コップに替え、プラスチック製のコップを利用する。

- ③コップの紛失防止のために容器回収場所を会場内に3ヶ所に設ける。
- ④ビール等の代金の他に預り金(デポジット)として、貸出時に100円いただき、返却時に回収場所で返金する。
- ⑤コップの洗浄は、移動洗浄機(車)を会場に配置し、スタッフが、回収場所からコップを運び、洗浄後、各販売所へ再度届ける。

(4) 実施結果

- 祭の参加者 約 20,000 人(前年 18,000 人)
- コップの回転率
 - 持込数 600 個 回転率 5.4 回
- コップの紛失
 - 114 個 19%
- 協力スタッフ
 - 運び 4 人
 - 洗浄 2 人
 - 回収 4 人 計 10 人

事 項	個 数
準備(リースカップ数)	600 個
洗浄車	1 台
洗浄人員(サポート)	2 名
各所配置人員	10 名

店舗名	貸 出	返 却	計(紛失)
A 企画	200	160	40
三吉野	70	36	34
多満	20	8	12
岬水産	50	25	26
くいしんぼう	20	18	2
ブース前	60	60	0
計	420	307	114

5. 普及促進対策と今後の課題

(1) 普及促進対策

- 実証実験を行った地元多摩区の各商店街や、地域の祭り、区のイベント等に、リユース食器を普及させるために、各団体や機関の関係者に事例の紹介を行う。
- 全市的な広がりを目指すためには、市行政の各イベントでの採用を多摩区役所から、発注してもらう。
- 区民際等の多くの市民が集まるイベントやJリーグサッカーなどの会場で市の環境啓発の一環として、事業化を市へ呼びかける活動を行う。

(2) 今後の課題

- 企業や行政のイベントで行う場合は、経済的な問題が生じないと思われるが、地域イベントでは、食器洗浄車やリユース食器の借り上げ費用の負担が新たな出費となるので、主催者に環境問題に対する十分な理解を得なければ、実施に至らない。
- 初めての試みの場合、主催者が不慣れなこともあり、準備・企画に経験者が従事しないと上手く運営できない。

(2) 反省点

- ・ 事前準備不足により、デポジットの仕組みが明確でなかった。
- ・ 通行止めの 16:30 から食器等の準備を開始したため店舗に配布が遅れた。
- ・ 回収所の看板を目立つよう高い位置に設置すべきであった。
- ・ リユース食器を使用するにあたって、商店側との打ち合わせが行き届いていなかった。
- ・ 事前の綿密な打ち合わせが不足していた。

【意見】

- ・ 学生(大学・高校・中学・小学生)からジュースで販売可能かと聞かれた。
- ・ 小中学生から学校の授業で習っているとの意見があった。
- ・ 子ども連れの主婦の方々より、子どもに説明しますとの(よい評価)意見あり
- ・ お父様が連れてきているお子さんに「このコップを使う意義」を説明していた。
- ・ 洗浄車やリユースコップを初めて見たとの意見
- ・ (リユースは)コップだけなんですかとの積極的な関心を示した人あり
- ・ 紙コップは回収してくれないのですかとの(厳しい)意見あり

6. 視察者(システム説明実施)

環境局	
市議会議員	2名
国会議員	1名
議員秘書	2名